

地方創生に資する科学技術イノベーション推進の「6つの視点」

(平成27年7月31日)

本タスクフォースにおいては、「地域の強みを活かして自ら変革する地域」、「社会的イノベーションを誘導して新たな価値を創出する地域」の実現を目指し、地方創生に資する科学技術イノベーション推進の「6つの視点」を以下のとおりとする。

視点1【自立性、主体性】地方が主役であること。地方自治体や地域の企業等の地域のプレイヤーの主体的関与による地方創生を目的とした取組であり、国はあくまでお助け役であること。

視点2【独自性、多様性】地方の個性や強みを踏まえたものであり、画一的ではなく、「地方によって違う」ものであること。(地域ごとに「違うこと」に価値がある。また、どのような機関の関与や支援施策が有効かは地域の実態を踏まえて個別に判断されるべき。)

視点3【総合性、确实性】取組の出口である「地域の発展」までつなげるよう、地域の特性に応じて、単なる関係省庁の連携強化にとどまらず、地域の目から見て必要な「関係施策を総動員」すること。

視点4【継続性、持続性】一過性のものではなく、「持続性のあるもの」であること。(スピード感ももちろん必要だが、地方が自らかみしめ自らのものとするまで、長い見守りも必要。)

視点5【有用性、有効性】科学技術ということで敷居を高くするのではなく、地方にとって身近に活用でき、真に役に立つものであること。

視点6【連携性、広域性、グローバル性】一つの地域で閉じるのではなく、広域的、全国的あるいはグローバルな視点を持ち、ネットワークを生かした情報共有等を行うことにより、ノウハウ、人材等の資源の広域的な活用を図ること。(地域のひとりよがりにならないこと)